



→舟の行き交う光景には風情がある。これが、やがて水上バイクにとって代わる季節になってきた。はっきりいって波をけたてて行き交う水上バイクは、邪魔だ。



↑矢切の渡しは河川敷ゴルフ場を横切る。もっとも、ゴルフ場のほうがあとからできたのだが、この季節、コースを可憐な花がおおう。ムラサキサギゴケという。

ポカポカ陽気に誘われて人がでた。毎週、顔をあわせるヤンキースおじさん（真っ赤なNYマークの帽子をかぶっているからそう呼ぶ）と話した。「親切って、なんだろうね」「いきなり、そう訊かれた。」「……………」

「むずかしい質問だ。」

返答にとまどっていると、ヤンキースおじさんが、ニヤリと笑って、「じゃ、丁寧ってなんだとおもう?」「……………!」

「親切、丁寧?　ますます言葉にきゅうしてしまった。」

ヤンキースおじさんのいうには、近ごろやたらに頭を下げられるのだそうだ。あれはいつたい、どういう意味なのだろうという。

そういわれてみると、スーパーマーケットのレジで支払いをすませると、ベルトのあたりで両手を組んで親指で三角形をつくり、レジ係に頭を下げられることがあたりまえのようにある。

それも、しっかり頭を下げないからおざなりの感じをまぬがれない。

今週のクマ

→カメラを向けると、いつもだったら目をそむけるクマが、みんなの注目を集めているのを自慢しようというのか、カメラに目を向けた。しょうがないから撮ってやるか……………！



尺(およそ30cm)ほどの死んだ魚が江戸川をただよっていた。おもわず目をとめたのは、やはり風聞か？

考えてみるとスーパーのレジだけではない。私は仕事で新幹線をよく利用するが、車内を通るたびに入り口と出口で車掌がお辞儀をするのが気になっていた。車内販売員もやはりそうだ。

気にしなければ、どうってことはないのだが、ある日、新幹線に乗ろうと列に並んで待っていたら、入線した折り返し列車の車内掃除が終わった清掃員が、私の前に一列に並んで、こちら向きにいつせいに辞儀をした。

よせばいいのに、その光景を見ていたものだから、目が合ってしまった。おもうずこちらもお辞儀をした。あわてて、あたりを見まわした。だれも私に気づいていなかった。なぜかホツとした。矢切の渡しでは、いちいちお客さんに対してお辞儀などしない。ただし、下舟するときは、ひとりひとりに、

「ありがとうございます」
と、舟頭さんが声をかける。

すると、下りるお客さんも、きまつて「ありがとうございます」
と、応じる。

じつに、さわやかだ。

お辞儀は、すればいいというものではないようにおもうが、どうだろう。